

# パートナーシップで取り組む 所沢市マチごとゼロカーボン

令和4年11月27日

関東地方環境パートナーシップオフィス(関東EPO)  
関東地方ESD活動支援センター(関東ESDセンター)  
一般社団法人環境パートナーシップ会議

島田幸子

# エポ EPOとは何か

- ・環境省の出先機関である地方環境事務所の管轄区域(計8ブロック)ごとに、官民協働による「**地方環境パートナーシップオフィス(地方EPO)**」を運営(環境教育等促進法第19条第1項に基づく拠点として位置づけ)。
- ・中間支援組織として、環境NPOの基盤強化支援のほか、地域の環境課題に応じて、多様な主体が対等な立場で相互に協力して課題解決に取り組むよう、コミュニケーションの場づくり等を行っている。



# EPOの目的

## 持続可能な社会の構築

### 持続可能な社会

健全で恵み豊かな環境を維持しつつ、環境への負荷の少ない健全な経済の発展を図りながら持続的に発展することができる社会

[環境教育等促進法]

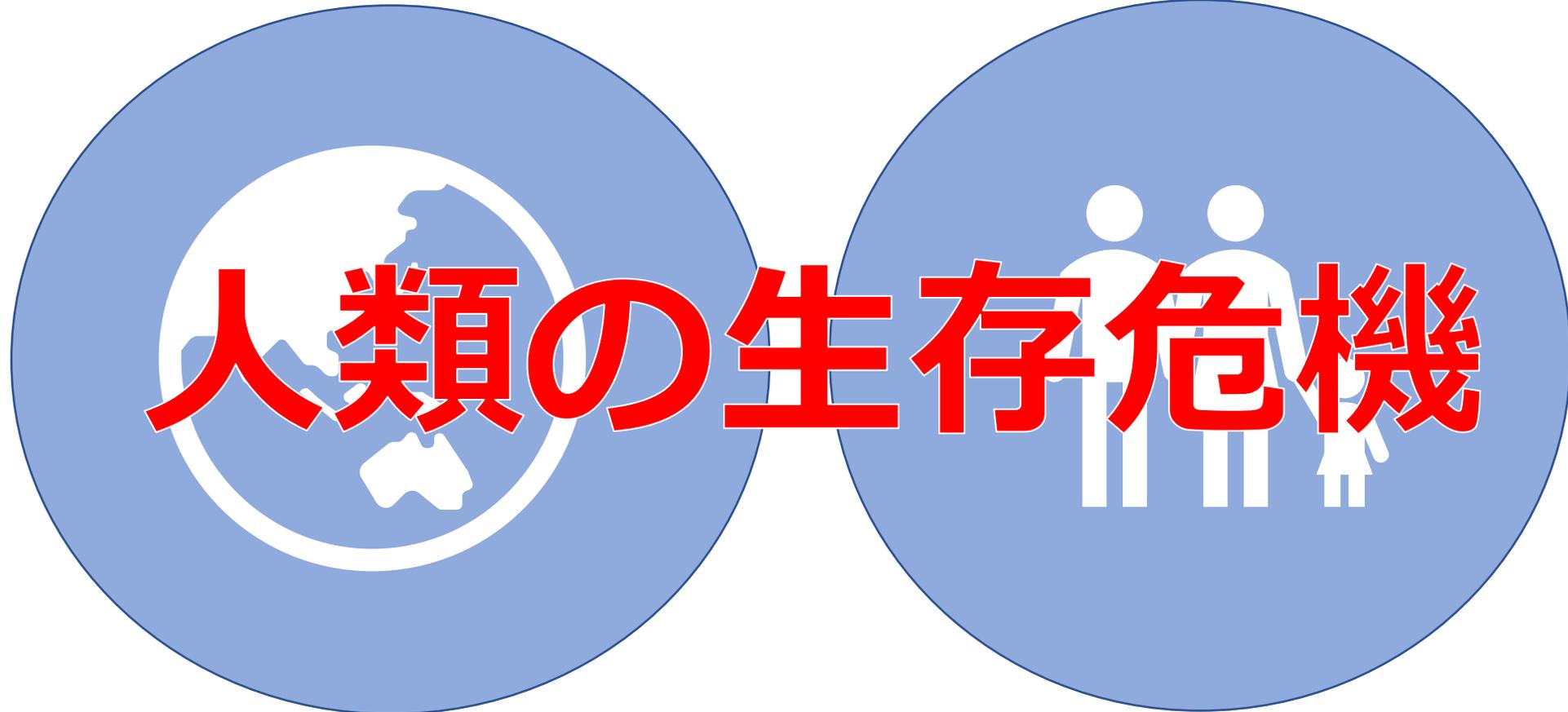
持続可能な社会と言えば・・・

# 持続可能な開発目標(SDGs)

## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



# SDGsが生まれた理由



人類の生存危機

地球の限界

人権の危機

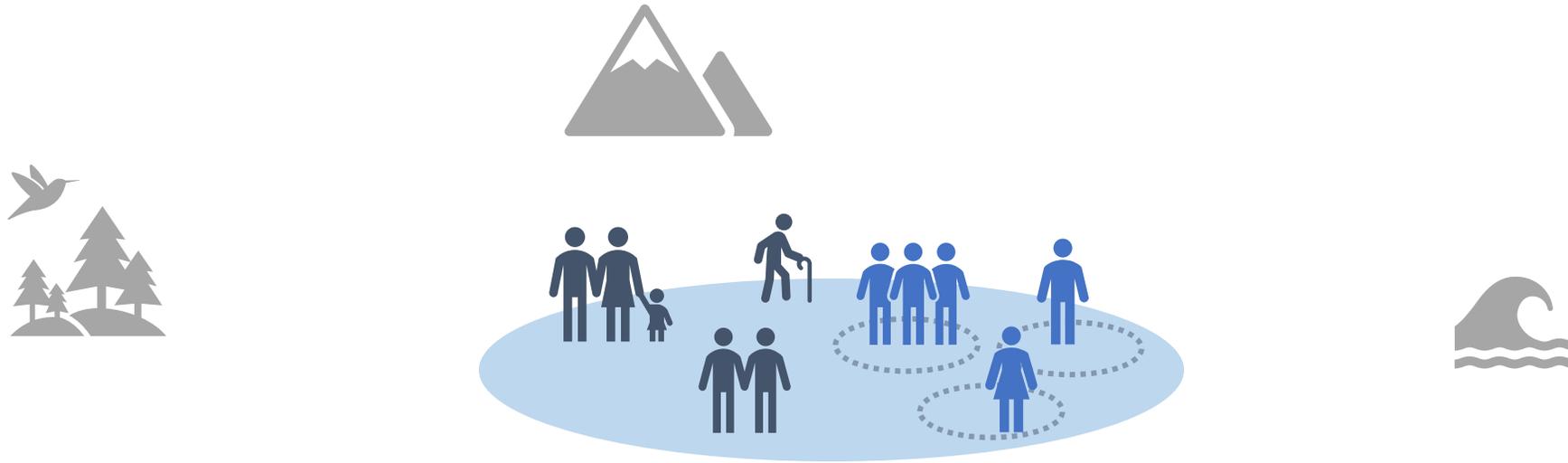
なぜそのような状況になっているのか？



Graphics by Jerker Lokrantz/Azote

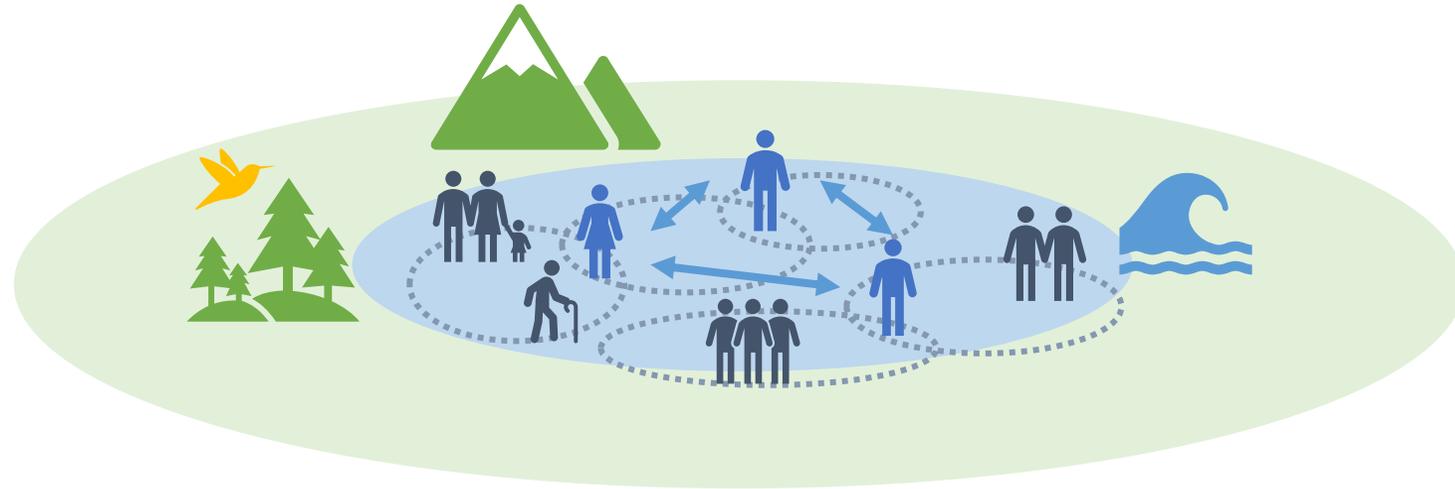
出典：ストックホルム・レジリエンス・センター  
<https://www.stockholmresilience.org/>

# 分断されている現代社会



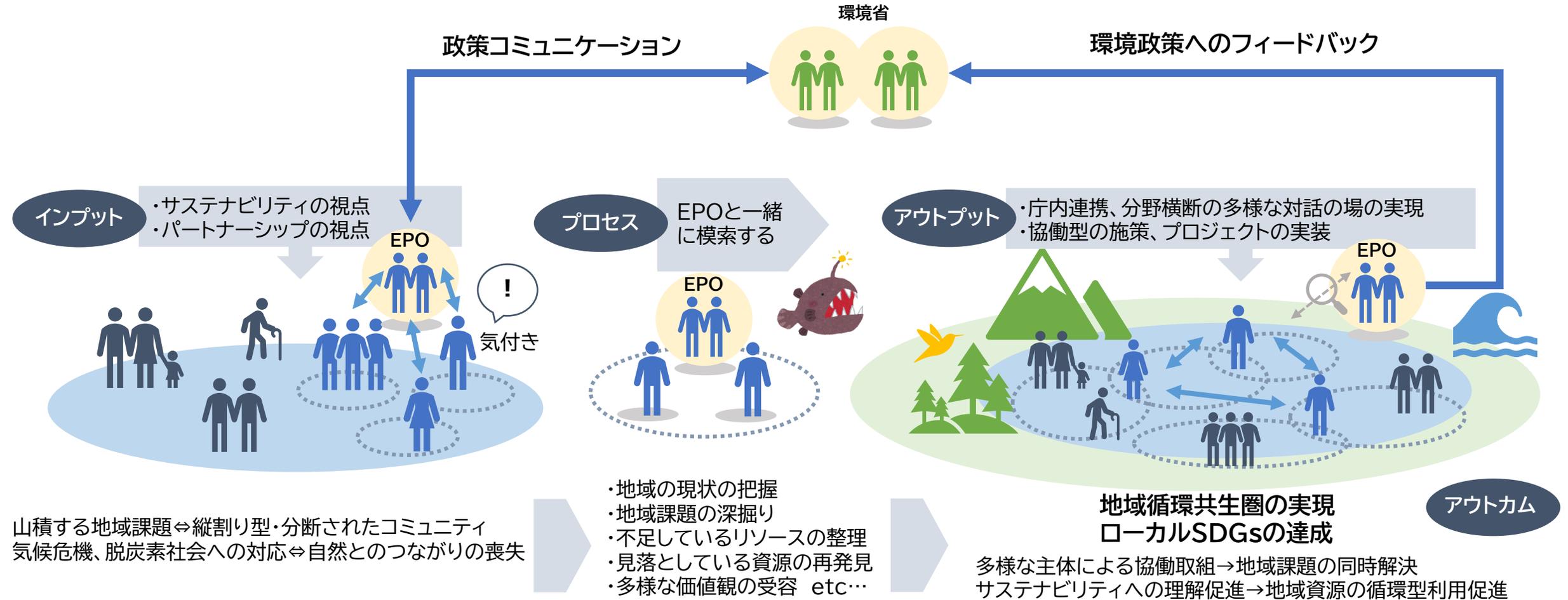
山積する地域課題⇔縦割り型・分断されたコミュニティ  
気候危機、脱炭素社会への対応⇔自然とのつながりの喪失

# 持続可能な地域社会



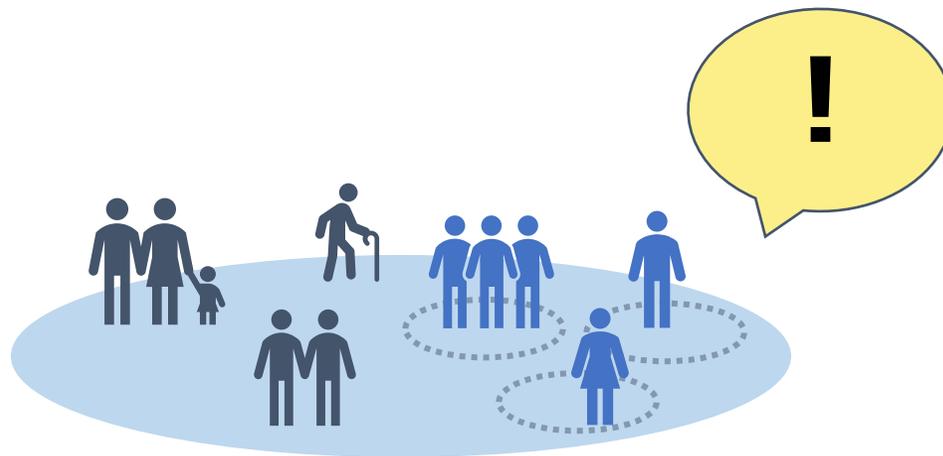
多様な主体による協働取組→地域課題の同時解決  
サステナビリティへの理解促進→地域資源の循環型利用促進

# EPOの役割



※EPOの機能と役割について R4年度整理

# 始まりは、「地域」に主体性のある「誰か」



今回の会議にご参加した皆さんも、その「誰か」かもしれません

# 持続可能な地域社会



いちばんのポイントは何でしょうか？

ポイントは、  
「ひとり」や「ひとつの組織」だけでは、  
絶対に実現できないこと

# パートナーシップ・協働取組

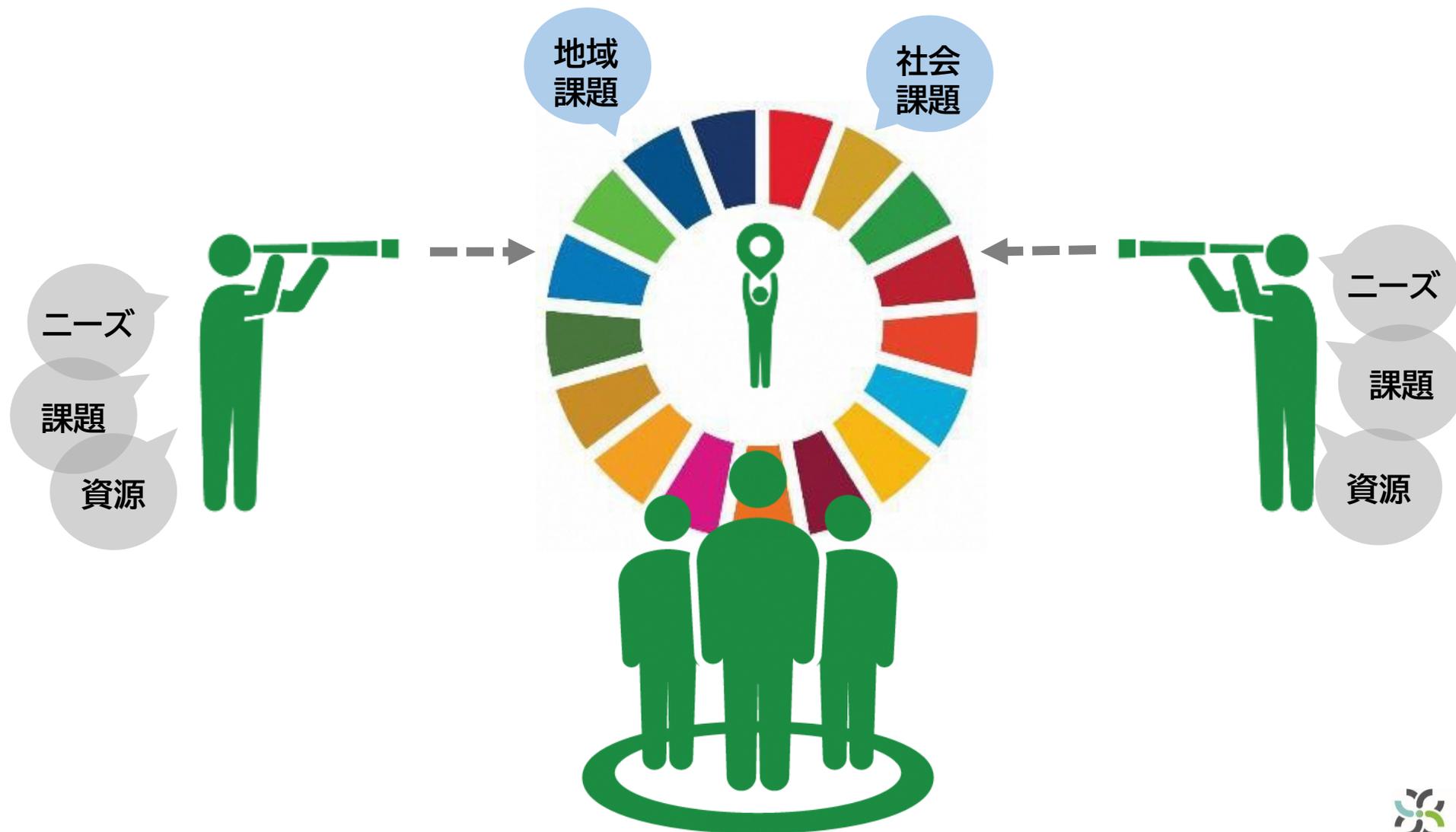


17 パートナーシップで  
目標を達成しよう

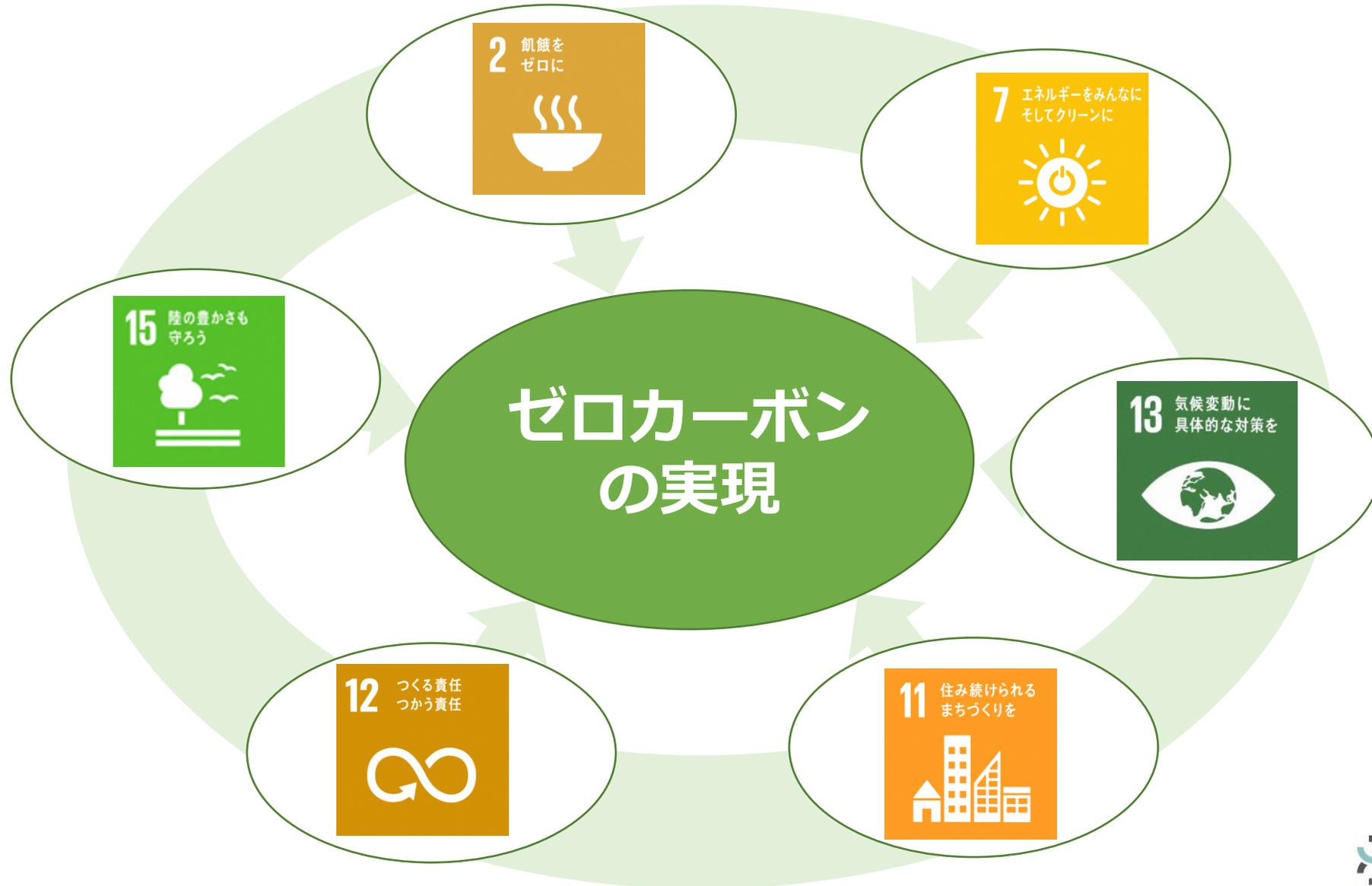


# 協働取組とは

自分の活動・生活の向こう側には、  
必ず他の誰かの活動・生活がある



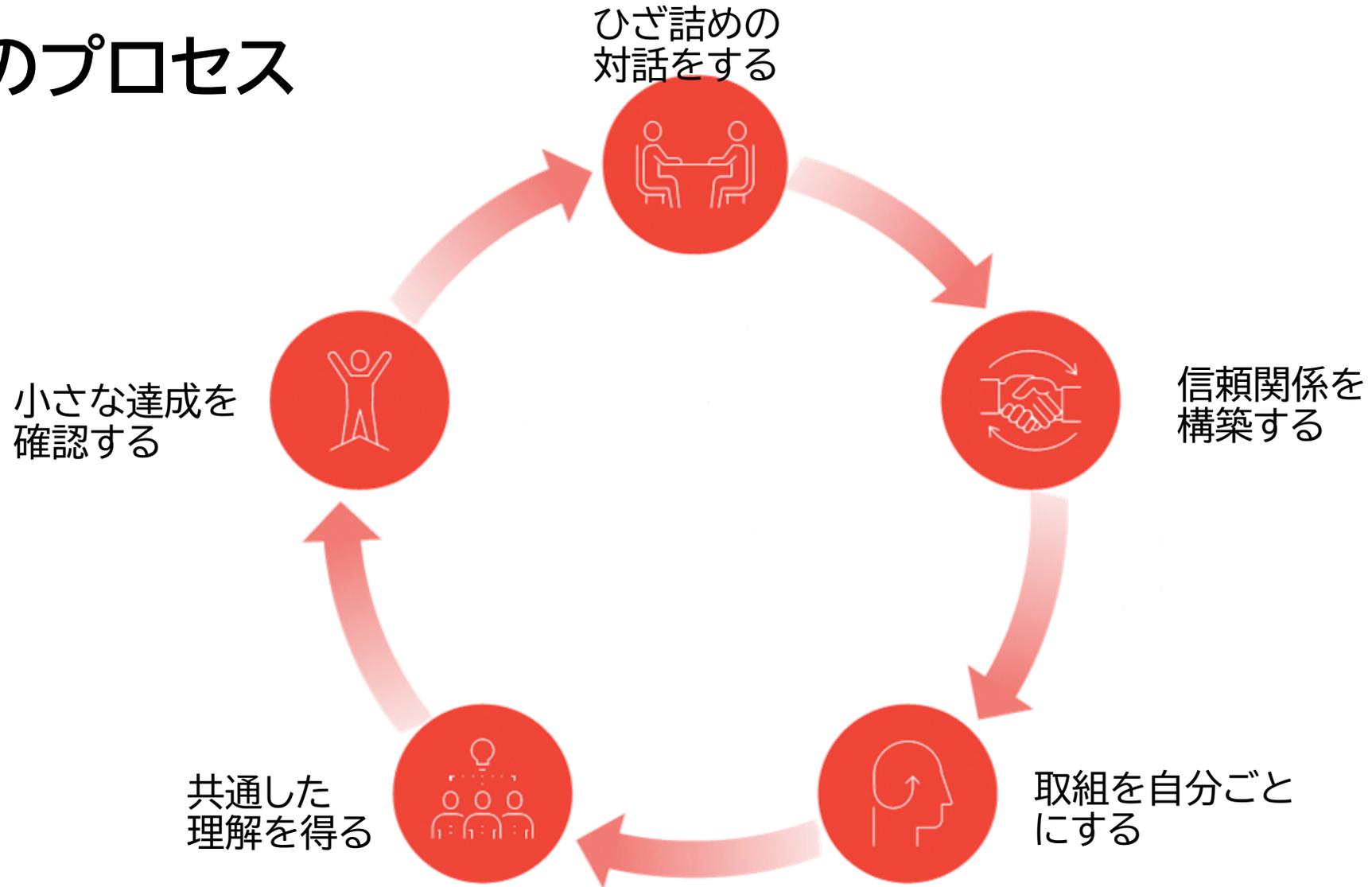
# 課題・テーマのつながりを考える



# 課題・テーマに関わっている「人」を見つける



# 協働のプロセス



第4回 所沢市マチごとゼロカーボン市民会議

# 実践例から考える

# 環境モデル都市 熊本県水俣市 「ごみ減量女性連絡会議」

水俣市は1992年に「環境モデル都市づくり宣言」。  
1993年から「ごみの高度分別収集」を開始。現在は24分別。

1997年に市が婦人会などに呼びかけ、16団体でつくる「ごみ減量女性連絡会議」が発足。

ごみになるものを家庭に持ち込まない、あるものを永く大事に使い続けたり、環境に配慮した商品の購入をすすめるなど、ごみ減量に必要な仕組みづくりを検討し実践している。

## ■ 食品トレイの削減

1998年市内4店舗との間で、生鮮食品96品目の内65品目について「食品トレイ廃止申し合わせ書」を締結。2000年には、トレイ廃止品目を76品目に増やした。

## ■ レジ袋の削減

2009年から、市内の事業者とレジ袋無料配布取止めにに向けて話し合いを進め、11月に市内事業者(25店舗)と行政との三者で「レジ袋削減に関する協定」を締結。

## ■ エコショップの認定・審査

省資源、ごみ減量、リサイクルの推進・環境にいい商品の販売、省エネルギーの推進など、環境にいいお店づくりを実践している店舗を「エコショップ」として認定する制度を水俣市と協働で作り上げ、認定のための審査を行っている。



写真：水俣市

# しずおか校庭芝生化応援団

## 静岡県温暖化防止活動推進センター(事務局)

ヒートアイランドの抑制、温暖化防止についての普及啓発、環境教育として、静岡市内の企業・行政・団体が連携し、市内の保育園・幼稚園・施設で、園庭等の芝生化をしている。これまで56ヶ所で実施(2009~2021)!

清水エスパルスの練習場整備により生じる廃材(小さな芝生の株)から、ポット苗を育成。

応援団員の社員がボランティアとして、植付、芝刈り、雑草取り、散水、肥料散布などに参加。芝生の育成・維持管理に関わる技術的アドバイスや芝生を活用したサッカー教室、環境学習会、芝開き会なども開催している。

◎応援団員の構成

清水エスパルス(株)エスパルス/NPO法人グラウンドキーパーズ

鈴与グループ/損害保険ジャパン(株) / 静岡信用金庫 / (株)静鉄ストア

(株)エンチョー / Shizuoka環境キャラバン隊



写真：静岡県温暖化防止活動推進センター

# 東松島市の復興を支援する環境保全協働事業

一般社団法人 持続可能で安心安全な社会をめざす新エネルギー活用推進協議会 (JASFA)

## 解決したい課題は何か？

東日本大震災で被災した東松島市は、震災からの復興を実現する環境未来都市構想採択を活用して、再生可能エネルギー活用と自然環境との融和等の復興推進計画を立てている。しかし震災前から特段環境教育に力点を置かなかった状況があり、事業運営を担う人材が不足している。そのため、事業推進のためには環境保全活動などに造詣が深い人材を育成することが急務であり、人材育成プログラムの構築や多年層に跨る教育実践に要する人材の配備が必要であった。



大人向け市民講座では座学と技術研修を実施



地域のお祭りで太陽光調理器具を使った啓発

## 想定していた協働取組は何か？

東松島市で被災者就労支援事業として不定期で実施されていた環境関連専門講座の充実を図り、市民向け環境関連講座として体系的に開設することを目指した。さらに、専門家・企業・地域ステークホルダーとの協働により、再生可能エネルギーの活用促進のための技術的な人材育成にも取り組むこととした。

一般市民向け環境講座としては、学識経験者、専門家、環境系企業などの専門職による総合的な知見を活用し、カリキュラム構築と自治体との連携・協働の促進をねらった。また、子ども向け環境教育として、再生可能エネルギーに対する興味を深める目的で、太陽熱を効率よく集熱し湯沸する器具を用いた「太陽熱調理実習」を軸としたプログラムの作成も計画していた。

そして、これら取組が継続的なものになるようにしていくために、地域住民の理解を得ながら企画立案を行い、その有効性を検証することで、継続的に環境教育が実施される仕組みづくりを目指した。



小学校で環境講座の実施

## この取組で何が生まれたか

### ■ 地域住民との信頼関係の構築

環境未来都市構想の将来の担い手を育成する本事業は、東松島市で支援活動に取り組む他の主体との協力・連携・協働へと展開可能な要素として受け入れられた。協力者を拡充する過程において、分野の違う医療法人や地元農業法人との協働が生まれ、リハビリ農園を構築する事業が新たに発生し、一般市民向け環境教育に農事体験メニューが加えられることになった。農業法人との連携や地域活動を通して現場で様々な出合いを重ねることで、地域住民からの信頼関係の深まりを感じることができた。

### ■ 自治体との協定締結

被災者就労支援の延長として一般市民向けの環境教育を、さらには将来の担い手の子ども向け環境教育を通して市の政策との連動や市民協働を推進することとなり、東松島市とJASFAによる協定締結へと発展した。平成26年4月には「環境未来都市東松島市 環境学習推進協力に関する協定」の締結式が行われた。



環境省「地域活性化を担う環境保全活動の協働取組推進事業」  
GEOC発行『協働の仕組 環境課題と地域を見直す取組のプロデュース』より  
[http://www.geoc.jp/content/files/japanese/2018/02/kyoudo\\_handbook2017.pdf](http://www.geoc.jp/content/files/japanese/2018/02/kyoudo_handbook2017.pdf)

写真：一般社団法人 持続可能で安心安全な社会を  
めざす新エネルギー活用推進協議会（JASFA）

地域の実践モデルづくり

# 静岡県長泉町 小水力発電ESDプロジェクト



型式：開放型振子式下掛け水車

出力：8kW 年間発電量：49,000kW（一般家庭4軒分）

# 小水力発電のつながり





# 教材開発・配布



A5版 8ページ  
学校で使えるように、  
ワークシートとした

# 地域住民への教育



防災訓練



中学校2年理科（エネルギー）  
「発電について学ぼう」で活用

「ニコニコ水力で作られた電気は持ち運び用バッテリーで離れた場所でも使うことができます。災害時など『もしも』のときにあなただったら、どのように使いますか？」

